

S008 | シンポジウム8

【併催学会】 歯内療法

# 診療ガイドラインに沿ったう蝕治療 ～歯髄保護と根面う蝕への対応～



[モデレーター] <sup>はやし みかこ</sup> 林 美加子 (大阪大学大学院歯学研究科 教授 (口腔分子感染制御学講座歯科保存学教室))

- 略歴● 1987年 大阪大学歯学部卒業/1997年 博士(歯学)(大阪大学)  
日本歯科保存学会副理事長 (う蝕治療ガイドライン委員会委員長)  
日本歯内療法学会理事 (ガイドライン委員会委員長)

## S008-1 根面う蝕の診療ガイドライン



<sup>まつざき えつこ</sup> 松崎英津子  
(福岡歯科大学 准教授 (口腔治療学講座歯科保存学分野),  
口腔医学研究センター, 医科歯科総合病院 健診センター)

人生100年時代の今日、多くの歯を維持することは健康寿命延伸に寄与する。一方、疫学データによると70歳代で65%、80歳代では70%が根面う蝕に罹患しており、8020達成による歯の保存は、根面う蝕という新たな課題と直面している。

本講演では、日本歯科保存学会う蝕治療ガイドラインから、活動性根面う蝕の回復に対する種々のフッ化物応用について、エビデンスに基づく最新情報を概説し、明日の臨床へつなぐものとした。

- 略歴● 2000年 長崎大学卒業/2006年 博士(歯学)(九州大学)/  
日本歯科保存学会 う蝕治療ガイドライン作成小委員会, 日本歯内療法学会学術委員会, ガイドライン委員会, 理事長付幹事

## S008-2 診療ガイドラインに沿った根面う蝕のマネジメント



<sup>くぼ しせい</sup> 久保 至誠  
(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
元・准教授 (保存修復学部門))

非活動性根面う蝕には、進行がほぼ停止しているう蝕と長年にわたって徐々に進行するう蝕があり、これらはある程度進行するまで修復する必要はない。活動性根面う蝕は、フッ化物の応用や口腔衛生指導・教育により非活動性化することができる。本シンポジウムでは、長期間フォローアップしている症例を供覧しながら、通院患者に対して演者が行っている非侵襲的なう蝕管理を中心とした根面う蝕への対処法を紹介したい。

- 略歴● 1981年 東京医科歯科大学卒業/1988年 歯学博士(東京医科歯科大学)/2007年度日本歯科保存学会学術賞受賞, 日本歯科保存学会 う蝕治療ガイドライン作成小委員会委員

## S008-3 歯髄保護の診療ガイドライン



<sup>さわだ のりひろ</sup> 澤田 則宏  
(東京都開業 (澤田デンタルオフィス))

歯髄を保存することにより、歯は象牙質歯髄複合体という生体の防御反応を維持することができる。歯髄保存処置を行い歯の機能を保ち、より永く口腔内で機能させたいというのが、患者および歯科医師の希望である。

本講演では、深在性う蝕に対する暫間的間接覆髄法やMTAを用いた直接覆髄法など診療ガイドラインに沿った歯髄保存の治療法について解説し、今後の歯髄保存のさらなる可能性へとつなげた展望をお話する。

- 略歴● 1988年 東京医科歯科大学卒業/1992年 博士(歯学)(東京医科歯科大学)/2021年 日本歯科保存学会 う蝕治療ガイドライン作成小委員会/2021年 日本歯内療法学会 診療ガイドライン委員会副委員長

## S008-4 診療ガイドラインに沿った歯髄保護



<sup>たなか としのり</sup> 田中 利典  
(東京都開業 (川勝歯科医院 副院長))

不可逆性歯髄炎を呈する歯には、抜髄を行うことが一般的である。しかし、今日の歯内治療を取り巻く機器・機材の進歩や患者側のニーズの変化から、より保存的なアプローチが望まれるようになってきている。

本講演では、診療ガイドラインに沿った歯髄保護の実際を供覧いただき、臨床的な意義や術中の留意点について整理する。予防・管理型へとシフトする歯科医療において、歯の延命につながる保存的介入方法の参考になれば幸いである。

- 略歴● 2001年 東北大学歯学部卒業/2020年 博士(歯学)(東北大学大学院歯学研究科)/米国歯内療法専門医, 日本歯内療法学会学術委員会委員・ガイドライン委員会委員